

contents

- ・新病院長挨拶
- ・新診療科長挨拶
- ・集中ケア認定看護師修了式
- ・血管撮影装置を更新
- ・生理機能検査室を新装
- ・診療科紹介
小児科 / 呼吸器内科
- ・公開講演会スケジュール



【杏林大学医学部付属病院】
〒181-8611 三鷹市新川6-20-2
Tel. 0422-47-5511 (代表)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital>

■ 新病院長挨拶



病院長 甲能 直幸

今、大学病院に求められているものは、高度な医療の提供、高度な医療技術の開発・評価、研修の実践にあります。これに加えて安全で安心してかかることが重要で、私たち杏林大学付属病院が目指しているところでもあります。加えて大学教育病院として思いやりの心を持ち、患者さんの立場に立って診療することが出来る人間性豊かな医療従事者の育成も大切で、日々の努力に務めております。

臓器別の診療科に加え、高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、腎・透析センター、がんセンター、脳卒中センター、もの忘れセンター、熱傷センターなどが診療科の枠を超えた横断的な組織として確立し全病院的な治療を行っております。また救急初期診療チームが24時間体制で1、2次救急に対応しております。

このように私たちは、三鷹市を中心に東京の多摩地区の地域に根をおろし、周辺の方々や社会に信頼される組織づくりを心がけております。

その基礎となり重要なものは施設の充実であります。安心して入院生活がおくれる、これまでの耐震基準を超えた免震構造の施設、近代的な最先端の手術室、厨房設備、最新鋭の診断・治療装置などの充実に心がけております。

私たちは、この恵まれた環境のもとに患者さんの要望を満たすことが出来るように病院をあげて努力をしております。

■ 新診療科長挨拶



麻酔科 萬 知子

最終学歴

昭和59年 慶應義塾大学医学部卒業
昭和63年 慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程修了

職歴

昭和63年4月 慶應義塾大学医学部専修医(麻酔科)、昭和63年7月 国立東京第二病院麻酔科、平成1年8月 都立大塚病院麻酔科、平成7年5月 慶應義塾大学医学部非常勤務講師兼務(漢方クリニック)、平成13年1月 国家公務員共済組合連合会立川病院麻酔科、平成15年4月 杏林大学医学部講師(麻酔科学)、平成18年4月 杏林大学医学部助教授、平成22年4月 杏林大学医学部教授



消化器・一般外科
杉山 政則

最終学歴

昭和52年 東京大学医学部卒業

職歴

平成2年 東京大学第一外科医局長
平成5年 帝京大学市原病院外科講師
平成7年 杏林大学第一外科講師
平成9年 杏林大学第一外科助教授
平成17年 杏林大学外科教授

この度、麻酔科学教室の主任教授に就任致しました。

ご指導賜りました皆様、医局員の皆様に心より感謝致しております。今後も、教育および研究活動に励み、また、臨床においても大学病院の中央部門の1つとして、他科、他部門と協力し、病院全体の医療の質の向上に努めたいと思います。

麻酔科の最も重要な任務は、安全で質の高い麻酔管理の提供です。そのために、専門医の育成によって質の高い人的資源を充実させ、日常の麻酔管理の監視体制をこれまで以上に強化したいと考えています。また、集中治療を含む周術期管理にも積極的に取り組みたいと思います。さらに、エビデンスに基づいた医療の向上を目指すことは医学部の使命であり、研究活動の発展は不可欠です。その基盤となる基礎研究は重要であり、麻酔関連薬や事象に対する脳保護作用の研究、オピオイドの神経因性疼痛抑制作用など、これまで先人が積み上げてきた研究を発展させるよう教室員とともに努力を重ねて参りたいと思います。どうぞよろしく御願ひ申し上げます。

私はこれまで消化器外科(特に肝胆膵外科)と胆膵内視鏡を専門に診療を行ってきました。膵胆道癌、膵嚢胞性腫瘍(膵管内乳頭粘液性腫瘍、膵粘液性嚢胞腫瘍など)、胆石を中心に研究も行ってきました。

当科では消化器・一般外科すべての領域にわたり世界水準の診療を行い、根治性と安全性を高めるよう努力しております。当科の診療の特徴として、開腹手術、腹腔鏡下手術、内視鏡治療のすべてを行っていることです。手術的治療にこだわることなく低侵襲的治療、非手術的治療も考慮して、患者さんの病状に合わせて最良の医療を行っています。なにとぞよろしく御願ひ申し上げます。



■ 集中ケア認定看護師教育課程修了式

平成21年度集中ケア認定看護師教育課程(※)修了式が、2月27日(土)に行われました。

昨年1期生として入学した24名は、全員無事、当教育課程を修め、修了式で道又元裕主任教員から1人ひとりに修了証書が手渡されました。

続いて、福井トシ子看護部長が「共に研修を受けられた皆さんが一人も欠けることなく、こうして修了式を迎えることができ、たいへんうれしく思います。そのことを家族や周囲の方々、そして支え合い共ががんばってきた仲間たちに、感謝するという心を忘れないで下さい。今日は本当におめでとうございます」と祝辞を述べました。

修了生たちはこの6ヶ月間の努力と苦勞を思い起こし、またその険しい道



のりを乗り越えたことで、充足感に満ちた表情や感極まり涙ぐむ姿などが見受けられました。

24名の修了生たちは、この後5月に行われる認定看護師認定審査に向けて、それぞれの職場に戻ってからも研鑽を積み重ねていくこととなります。

※集中ケア認定看護師とは、集中治療室(ICU)などに入院する生命の危機状態にある患者さんの看護を行うため、集中ケアに関する専門知識と高い技術を身につけた看護師のことで専門的な資格を必要とします。その資格取得のためには、600時間以上の認定看護師教育課程(専門科目の受講及び学内演習・臨床実習)の修了が必要で、当院は2008年11月に日本看護協会から集中ケア認定看護師教育機関としての認定を受けています。

高度救命救急センターの血管撮影装置を更新

高度救命救急センターでは、救急外傷の他に心臓疾患や脳血管障害などにおける救急患者の治療を行っており、その最適な診断と治療を行うために、血管撮影装置はなくてはならない装置です。

今年3月に導入された血管撮影システム「Infinix Celeris (東芝メディカルシステムズ)」は、心臓疾患・脳血管障害いずれの領域をもカバーすることができ、それぞれの専門領域を極めた先進のDual Planeシステムで、2つのアームが互いにバックアップとして使用できることから、高い安全性を確保しております。優れた操作性と高画質を備えた最新のFPD (Flat Panel Detector：平面検出器) という機器を搭載しており、各診療科に特化した最新テクノロジーを実現、また放射線被ばくも低減され、患者さんに優しいシステムになっていきます。

今回導入された全身対応の血管撮影装置は、高度な緊急検査と治療が行なわれる高度救命救急センターにおいて24時間365日稼働しており、今後とも臨床の現場で大いに活躍していくものと期待されます。



“検査を効率的に、そして快適に” 生理機能検査室を新装

心電図、呼吸機能、筋電図、脳波、超音波などの生理機能検査をフロアに配置することで、患者さんがより効率的に検査を受けられるようにした生理機能検査室が2月22日、第1病棟地下1階にオープンしました。

当院では、これまで検査ごとに独立した検査室を設けており、複数の検査を受ける患者さんにとっては、部屋を移動して検査ごとに受付をする必要があり、体調のすぐれない患者さんにとっては大きな負担となっていました。

改修された検査室は、全ての生理機能検査の受付を1か所にまとめるとともに、フロアに24部屋の検査室を配置し、全検査を集約することで患者さんの利便性を図りました。また、これまで検査スペースをカーテンで区切っていたのを改め、各室を完全個室化し、検査中は扉とカーテンを2重に引くことで、プライバシーに十分配慮した作りになっています。

もう一つの大きな特徴は、中央にスタップス

テーシオンを配置し、その回りを囲むように検査室と待合室を設置したフロア構成です。検査待ちをしている患者さんには検査技師や事務スタッフの動きがよく分かり、一方スタップスにいても検査を待つ患者さんの様子が確認できるため、急変時の迅速な対応も可能となります。また、こうしたレイアウトによって動線部分が十分に確保され、ストレッチャーやベッドのまま移動できるようになったほか、スタップスにいても検査室間を移動する必要がなくなりコミュニケーションが取りやすくなるという効果が生まれました。



診療科紹介

◆小児科

子どもの救急医療を必要とする疾患は容態が変わりやすく、また子どもは自分で症状を訴えることができません。当科では24時間体制で小児の救急に対応し、この地域で育つお子さんの医療・福祉・教育の向上のために、開業医の先生方と協力して様々な活動を進めています。

当科は小児科全般の診療を行っており、血液腫瘍疾患の治療、腎疾患の治療、血液透析・血漿交換療法、てんかんの診断と治療、急性脳炎・脳症の治療、心臓疾患、アトピー性皮膚炎や気管支喘息等アレルギー疾患の診療、新生児医療などに力を入れています。スタッフの専門別では神経、血液、循環器、新生児となっており、前述の他に専門外来ではアレルギー、膠原病、遺伝相談、予防接種外来を行っています。

院外の先生方を交えたカンファレンスは、多摩小児臨床懇話会を年3回開催し、近隣の小児科の先生方とコミュニケーションを図っています。この研究会は来年2月で100回目の開催となる予定です。また昨年度より年に3回、三鷹小児内分臨床セミナーを開始しております。院外では毎年2月に多摩感染免疫研究会を主催しています。

当科は365日24時間の対応を心がけ、今後も質の高い医療を提供し、この地域の全ての子どもの運命に貢献できるよう医局員一同邁進する所存です。

◆呼吸器内科

呼吸器内科は多摩地区の地域医療の拠点として、市中肺炎、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎などの疾患を専門的に診断・治療しています。09年度には、約2万人の患者さん(約750人が紹介患者さん)が外来を受診し、約千人の患者さんが専門的な入院加療を受けられました。

診断に際しては、気管支鏡検査、CT(高分解能CTを含む)、核医学検査(ガリウムシンチグラム・骨シンチグラム・肺血流シンチグラム)、呼吸機能検査(スパイログラフ、アストグラフ)などの専門的検査を常時施行しています。治療には、本邦、米国等で用いられるガイドラインに基づき着実な治療を目指すとともに、厚生労働省の難治性疾患克服事業にも参加し、肺の稀少疾患である肺胞蛋白症などの治療と研究を行っています。

当科では、最先端科学と人間性とのバランスの取れた医療を行い、地域の先生方のお役に立てることを目指して診療を行っています。



◆杏林大学公開講演会スケジュール

杏林大学では、本年度も医療・健康などをテーマに、公開講演会を実施いたします。皆様のお越しをお待ちしております。 ※入場無料・申込不要

◆関節リウマチの最先端治療

腎臓・リウマチ・膠原病内科 准教授 駒形 嘉紀
 <平成22年5月29日(土) 13:30-15:00>
 三鷹キャンパス 大学院講堂

◆めまいの話、あれこれ

耳鼻咽喉科 准教授 武井 泰彦 <平成22年6月26日(土) 13:30-15:00>
 三鷹キャンパス 大学院講堂

◆肺がんゼロをめざして

呼吸器・甲状腺外科 教授 呉屋 朝幸 <平成22年7月24日(土) 15:20-16:50>
 八王子市学園都市センター・イベントホール

◆循環器疾患とうまく付き合う

循環器内科 教授 吉野 秀朗 <平成22年10月2日(土) 15:20-16:50>
 八王子市学園都市センター・イベントホール

◆国民病としての腰痛とロコモティブ・シンドローム

整形外科 教授 里見 和彦 <平成22年11月13日(土) 13:30-15:00>
 三鷹キャンパス 大学院講堂